

とっとり産業フェスティバル2010 ポスター発表

テーマ	持続可能な地方都市における中心市街地のスケルトン・プロトタイプの開発研究
発表者	木俣信行 鳥取環境大学環境情報学部環境マネジメント学科 教授
概要	地方都市が少子高齢社会の中で継続的に活力を保ってゆくには、年齢階層を問わず住みやすい環境条件を整えることで、居住人口を維持するのが必須の条件である。市域がコンパクトに形成されながら多くの人々に住みやすく活動し易い環境を提供するには、しっかりした空間の整備が前提となる。そこで本研究では、日本の都市がこれまで成し遂げられなかった生活者へ安寧と、事業者に事業基盤を保障する寿命千年のスケルトンを構想した。

『背景・目的』			
<p>わが国では多くの人々の住まいが、狭い、遠い、高いと言う問題に直面しています。洋式の生活には狭すぎる窮屈な思いをする部屋の大きさ、会社や学校から遠く離れて通学・通勤に多くの時間が割かれ、ローンに一生付き纏われる生活は、文明国とか世界の上位の国民所得がある国の生活と言うには余りにも貧しいものです。その原因として、住宅の寿命が短いこと、遠く郊外に広がった住宅地に立つこと、土地の値段や建設費が高いことなどが挙げられます。一方でまちの中心市街地は豊かな空間造りが出来ていないこともあり、居住人口が減少して寂れて行くという状況を克服できていません。</p> <p>この研究では、こうした多くの人々が抱える住生活の問題を克服するための対策を迫りました。</p>			
『方法・手法』			
<p>家やまちづくりの個々の問題については、これまで多くの専門家による様々な角度からの多様な研究、意見発表や提案がなされております。この研究ではこのような関連する情報を調査するとともに、それらを実現性、現実性、経済性を基に評価し、「ゆとりがあり便利な生活と活気のある事業活動が永続的に維持できる住まいとまち」実現のための対策として纏める方法を採用しました。</p>			
『結果』			
<p>わが国の住生活の貧しさを克服するには、世代を超え長年に亘る人々の住まいへの投資が蓄積してゆき、結果的に住環境を良質で豊かなものにする対策が必要ですが、そのためには、歩いて暮らせる範囲に様々な施設を集積させるための容れモノとして、耐震対策、異常気象対策が十分に施された『千年寿命スケルトン』を定期借地権を活用して建設し、垂直ゾーニングで商店や事務所や公的施設などと住宅・私的庭園とコミュニティのための空間を共存させてゆく方向が、人々の願いに応える最適な方向であるとの結論を得ました。</p>			
『まとめ』			
<p>都市が郊外に際限なく拡大して行くことは、自治体にとっても大きな財政的な負担に繋がる状況です。コンパクトシティはその意味で地方政府にとっても望ましい方向ですが、市街地拡大へ寄せた人々の想い、即ち庭付き戸建を持ちたいという夢に応えることも、大切な要件です。庭付きの戸建をまちなかに設ける方法には、人工地盤があります。寿命千年のスケルトンはこうした様々な要件への回答になります。</p>			
【ライセンス情報】 発明の名称:	発明者:		
【産業界へのメッセージ】 寿命千年のスケルトンは、今でも技術的には建設可能です。これをは、まちなかに土地をお持ちの方々が土地基本法の本質、公共の福祉優先の土地利用に共感され貢献され、市民の方々が歩いて暮らせるまちづくりを目指されることで、実現出来ます。			
連絡先: 鳥取環境大学環境情報学部環境マネジメント学科 教授 木俣 信行 鳥取市若葉台北 1-1-1 TEL. 0857-38-6778 E-meil:kimata@kankyo-u.ac.jp			
分野	その他(不動産開発)	プレゼンタイム	有 (無)